

こぶしの花*



三内丸山遺跡センターにて 経営法学部生による「縄文遺跡を巡るポタリング体験」の試走

特集：青森田中学園と 世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」..... 2

青森中央学院大学.....	4	青森中央経理専門学校／	
青森中央短期大学.....	8	青森中央文化専門学校.....	12
附属第一・第二・第三幼稚園／		学園共通.....	14
中央文化保育園／浦町保育園.....	10		

青森田中学園と 世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」

約1万5千年前、豊かな自然の恵みを受けながら1万年以上もの長期にわたり持続可能な社会を形成した縄文時代の人々の生活と精神文化を今に伝える「北海道・北東北の縄文遺跡群」。青森田中学園でも、授業や地域活動を通して「縄文」へのアプローチを継続して行いました。2019年7月には世界文化遺産登録を目指した国内推薦が決定し、2021年7月27日、ついに世界へその価値が認められ、世界文化遺産に登録されました。

世界遺産登録に至るまでとこれからの、近年行った本学園の主な活動を紹介します。

2012年12月

講師に岡田康博氏を招き、わが郷土の歴史・産業・文化等について学ぶ公開連続講座「『世界を目指すJOMON』—縄文遺跡群の世界遺産登録を目指して—」を開催しました。「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」について、遺跡群の紹介や世界遺産登録に向けたスケジュール、要件等についてお話いただきました。



情報誌「あおり縄文女子」
(画像提供:青森県)

2017年11月

「北海道・北東北の縄文遺跡群」の興味・関心を高め、女性の情報発信力を利用してPRする青森県の情報誌「あおり縄文女子」のモデルが着用する縄文服のひとつに、青森中央文化専門学校アパレル専攻の学生のデザインが選出されました。また、全ての衣装制作からメンテナンス、フィッターまで、学生が協力しました。

2017年11月～2018年1月

冬の青森観光の新たな商品開発として、三内丸山遺跡をフィールドに冬季アクティビティ・イベントを企画する、あおりリズム創発塾セミナー「三内丸山遺跡冬季観光」(主催:青森中央学院大学地域マネジメント研究所/青森県)を開催しました。



▲ 三内丸山での冬季観光アクティビティを企画しよう



▲ 企画したプランを発表しよう



▲ SNSを活用したあおり観光資源の発信

2019年2月

青森市産官学連携プラットフォーム事業「情熱無限大AOMORI SIX合同学修研究発表会」にて、来場した市内6大学の学生はじめ産官学の関係者、高校生、一般の方々へ、青森中央短期大学食物栄養学科で考案した『縄文鍋』と樹の実や雑穀を使った『炊き込みご飯』の試食を行いました。



2019年9月

県産品を使ったお弁当メニューを青森中央短期大学食物栄養学科の学生が考案し、2012年よりイトーヨーカドー店舗で販売しています。2019年は『中短生が伝える味!縄文遺跡群登録応援弁当』を企画し、イトーヨーカドー青森店「青森県フェア」にて三村申吾県知事とともにPRを行いました。



2019年7月～2020年2月

青森県の縄文遺跡群を活用した観光振興・観光人財育成を目的として、あおりリズム創発塾セミナー(主催:青森中央学院大学地域マネジメント研究所/青森県)を開催しました。



▲ 第1回
青森県縄文遺跡群の魅力を知る



▲ 第2回
世界遺産を活用したヘルスツーリズム～熊野古道健康ウォーキングの取り組み～



▲ 第3回
古代体験の郷『まほろば』の取り組み～復元縄文集落を活用した原始生活体験～





2019年9月

学園祭「翔麗祭」にて、『北海道・北東北の縄文遺跡群』の世界遺産登録の応援企画として、青森中央短期大学食物栄養学科の学生が考案した『縄文餅』の試食・アンケート調査を行いました。



2021年5月

公開連続講義「暮らしと地域」では、講師に岡田康博氏を招き、テーマ「もうすぐ世界遺産」を開催。世界遺産登録までカウントダウンというタイミングで、改めて縄文遺跡群についての学びを深め、登録の意義について考えました。



2021年2月

「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界遺産登録に向けて機運を高めようと、経営法学部内山清教授ゼミ4年生が中心となり、青森市と五所川原市、つがる市の縄文遺跡を自転車で巡るための「縄文サイクリングマップ」を作成しました。



2021年7月27日

「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界文化遺産登録

2021年8月

「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産登録に決定したことをうけ、登録応援弁当として2019年に販売したものを『中短生が伝える味！縄文遺跡群登録記念弁当』として、イトーヨーカドー店舗でリニューアル販売されました。



2021年8月～

青森市による「あおりフィールドスタディ支援事業」に、今年度、世界遺産登録を果たした縄文遺跡群を活用した企画が本学より2件採択され、活動を行っています。



▲ 学生団体ディベラボによる小牧野遺跡との商品開発



▲ 経営法学部内山清教授のゼミ生による縄文遺跡を巡るポタリング体験

1994年7月、野球場の工事で直径1mの栗の柱が6本見つかった。30代半ばの銀行員は600人を超える発掘作業員で活気づく三内丸山に小3の長男を連れて行き、ブルーシートと板を渡しただけの遺跡に初めて対面した。その後、記録映画製作委員会の事務局担当という仕事が彼に与えられた。27年前の私の話である。

その三内丸山遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」がついに世界文化遺産登録を果たした。銀行員は還暦を迎え、今は大学教員を業としている。時の流れは速いが、これほどめでたいことはない。

近年、行き過ぎた市場競争が格差拡大を生み、社会の分断が世界的課題となっている。加えて、地球温暖化をはじめ環境問題は深刻化の一途をたどり、さらにCOVID-19が我々の日常をいとも簡単に塗り替えてしまった。「誰も取り

こぼさない持続可能な社会」を目指そうとしているのに、深刻な出来事が次から次へと起こり、私たちは今、途方に暮れている。

1万5千年前の定住社会に学ぶことは大きい。先史時代、まだ農業という営みも知らないまま紡がれた一万年王国。狩猟採集をベースにしながらも、高度な精神性を随所にかがわせるサステナブルな「まほろば」(住みよいところ)が、北海道・北東北のそこかしこに築かれていたのだ。

彼らが時空を超え、「ゆっくりと流れる時の中で、自然と共生し、助け合って生きていくことが大切だよ。ここはそういう生き方ができる土地じゃないか」と私たち末裔を励ましている気がしてならない。



青森中央学院大学 経営法学部 竹内 紀人 教授

「北海道・北東北の縄文遺跡群」
世界文化遺産登録に寄せて

青森県流通団地連絡協議会 合同企業セミナー



2021年10月8日、経営法学部3年生を対象とした「青森県流通団地連絡協議会 合同企業セミナー」を開催しました。青森市・弘前市・八戸市にある5卸団地で運営する青森県流通団地連絡協議会に加盟する企業の中から、今回は12企業が参加し、感染症対策のため会場を4つに分けて行いました。協議会に加盟する企業には本学卒業生が活躍している企業が多く、会場には社員として働く卒業生の姿が散見されました。

このセミナーは、3年生にとって就職活動のきっかけとなるものです。参加学生たちは、興味・関心のある企業の説明会場をまわり、人事担当者が話す業界の特色や業務内容などについて、真剣に耳を傾けていました。



「2021年度あおもり ツーリズム創発塾」について

2021年度「あおもりツーリズム創発塾」は、ウィズ／アフターコロナの環境下で観光需要を喚起するツールとして注目を浴びている「観光映像」の活用法を学び、ニューノーマル下での地域観光振興と持続可能な観光エコシステムについて考えます。

第一回講座「ウィズ／アフターコロナの地域観光振興 観光映像をフックとした地域経済の活性化について」を7月20日に、第二回講座「観光映像の力と可能性 日本国際観光映像祭受賞作品に学ぶ」を10月8日に開催しました。講座では、このコロナ時代において、観光映像が持つ力について学びました。

第三回講座の開催は12月に予定しており、これまでの講座を基に、地域経済を循環させる観光映像の活用について展望します。



「青森県健康増進 小論文コンテスト」で 優秀賞受賞

経営法学部4年 原大滋

この度はハッピードラッグ短命県返上特別企画「青森県健康増進 小論文コンテスト」で『優秀賞』という名誉ある賞をいただき、光栄に思います。

受賞した論文は、「青森県短命県返上につながるアイデア 一集計データと個票データによる検討」というテーマで作成しました。同論文では「生活習慣病」と「労働環境」に着目し、地域別の集計データや個票データを用いて分析を行いました。分析結果から、生活習慣病が高い要因の一つとして「スポーツ行動者率が関連している」ということ、その背景に、労働環境による影響がある可能性が示されました。それらを踏まえたうえで、スポーツ行動促進につながるアイデアを複数提案させていただきました。

データ分析の細かな指導をしてくださった経営法学部講師の福田隆巳先生はじめ、選考に携わった全ての方々にご場をお借りして感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、今後もより一層精進していきたいと思います。

※同コンテスト入賞者<入選>
青森中央短期大学専攻科福祉専攻
小山内 唯嘉
原子 恵
受賞おめでとうございます。



青森中央学院大学 教育フォーラムを開催しました

青森中央学院大学教育フォーラムは、「人口減少が続く地域社会における教育の在り方を考える」をテーマとして、継続的に開催しています。

2021年10月9日、第7回フォーラムは「高校魅力化による地域活性化の方策を探る その④」として、昨年度に引き続き、地域における教育の魅力化について議論しました。

基調講演では、島根県立島根中央高等学校校長の立石祥美氏に、「『教育の魅力化』が学校と地域にもたらしたもの」と題してお話し頂きました。また、東北各地で教育行政の先頭に立つ方々を交えて、「高校立地市町村は今、何をすべきか、何ができるのか」をテーマにパネルディスカッションを行い、地域が抱える課題と教育の在り方について考えました。教育関係者と本学の学生が聴講し、これからの学校教育の在り方について学びました。





地域との連携



まちなかキャンパス公開講座2021 「異文化理解講座」開催しました

青森商工会議所1階のAOMORI STARTUP CENTER(青森市)を公開講座の会場とし、「日本と諸外国の文化の違いについて学んでみよう」をテーマに、全4回にわたってまちなかキャンパス公開講座2021「異文化理解講座」を開催しました。各回の講師は、青森中央学院大学経営法学部の教員です。

第1回は中国、第2回はモンゴル、第3回はベトナム、第4回はコロンビアと、それぞれの国の背景を説明しながら、異文化を理解するためのポイントについて学びました。

8月12日、2021年度最終回の第4回講座では、経営法学部の志喜屋カローリーナ助教が講師を務め、コロンビアの方々からオンラインで直接お話を伺い、通訳を交えながらの異文化交流を楽しみました。



「むつ市中学生夢はぐくむ 体験入学事業」を開催しました

2021年8月4日、むつ市と本学の連携事業の一環として、将来、看護職・医療職への就職を希望するむつ市内の中学生を大学が受け入れる「むつ市中学生夢はぐくむ体験入学事業」を開催しました。この事業は、2016年度から継続して実施しているものです。

今回参加したむつ市の中学生5名は、佐藤敬学長の特別講義「青森の未来を担う皆さんへ」、看護学部の川添郁夫准教授による模擬授業「『ハウルの動く城(宮崎駿監督)』を読み解こう!」と実習体験「コラージュで楽しみましょう!」、経営法学部の姜尚民講師によるワークショップ「留学生と語ろう、グローバル社会と私たち!」、キャンパスツアーなど、一日大学生を体験しました。

中学生からは「国家試験の勉強を頑張ろうと思った」、「自分を知るよききっかけになった」、「将来を考えるヒントにしたい」、などの感想をいただきました。



国際交流



海外協定校とのオンライン交流会を開催



新型コロナウイルス感染症の影響により国際的な人の往来が制限され、2020年初めから海外協定校との交流が減少していました。この状況を打開するため、

長年協定校としてお互いの交換留学生を受け入れ、日本人学生の短期留学先としても実績がある南台科技大学(台湾)と本学で、オンライン交流会を2回開催しました。

第1回は7月3日、『青森観光りんご園まるせん川村』で「オンラインさくらんぼ狩り交流会」を行いました。南台科技大学の学生5名と本学の日本人学生3名が参加し、自己紹介の後、本学の学生はタブレット端末でさくらんぼを撮影し、試食した感想を共有しました。南台科技大学の学生は画面を通じて農家の方とも会話や質問をし、青森の自然、農産物への理解を深めました。



第2回は10月30日、株式会社ローソン様協力のもと、ローソン青森三内沢部店で「コンビニエンスストアでのバーチャル・ショッピング体験」を行いました。南台科技大学の学生7名と本学の学生3名(日本人学生2名、台湾出身の留学生1名)が参加し、本学の学生が店内の商品やサービスを紹介しました。台湾側からは、「すごいですね!」、「おいしそう!」と積極的な反応があり、本学の学生も紹介できました。南台科技大学の学生は台湾のコンビニエンスストアを紹介し、互いの国のコンビニ文化を通して交流を深めました。

世界的なパンデミックにより対面でのコミュニケーションは制限されましたが、オンラインでのつながりによって世界はある意味で近い存在となりました。双方の学生にとって今回の取り組みが、アフターコロナ時代の社会のグローバル化を自分ごととして捉える機会となることを期待します。





「飛翔式」を行いました

本学の「飛翔式」は、看護学部2年生が、基礎看護学に引き続き、幅広く専門科目を学び始める2年次後期に、大学で看護学を学ぶことの意義を探究し、今後の学修に臨むにあたっての学修の志を明確にするために行われるものです。2021年10月16日、看護学部7期生による「飛翔式」が行われました。例年、2年生の保護者と1年生が見守る中とり行われるのですが、今年度は昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染防止対策として1年生の代表のみ参加し、保護者の参列は見送られました。

当日は、学生一人一人の「学修の志」を上映した後、学生代表が「誓いの言葉」を宣誓しました。その後、一戸とも子看護学部長のあいさつに続き、佐藤敬学長、石田憲久理事長からの励ましの言葉をいただき、記念品として学生にナースウォッチが贈られました。それぞれの誓いの言葉はメッセージボードに貼られ、1号館キャンパスショップ横の通路に展示されています。



飛翔式関連行事講演会「がんを体験して思うこと」開催

2021年9月17日、看護学部2年生は「飛翔式」に向けて、関連行事である講演会を開催しました。毎年「飛翔式」の前に講演会を行い、自身の将来の目標に向けてどのように考え行動していくか、看護を学修するための志について考えることが目的です。飛翔式実行委員の学生が運営の中心となって開催しました。

今年度の講演テーマは「がんを体験して思うこと」。講師は、キャンサーサバイバーの菊地政彦氏です。

菊地氏には、自身の体験したことやそれによって分かったこと、そして今取り組んでいる「リレー・フォー・ライフ・ジャパン」のこと等についてお話をいただきました。また、講演の後にはグループワークを行い、印象に残ったことやがん患者の看護について等話し合いました。看護を学び始めて1年半が過ぎた学生たちですが、医療の専門的な学習を積み重ねていくための志を考える貴重な機会になりました。



飛翔式と講演会を通じて学んだこと

2年生の行事である「飛翔式」と、関連行事の講演会で、私は多くのことを学びました。

まず「飛翔式」について、私は「全体統括」という役割を担当し、各係の役割を見てきました。メッセージボード作成係やポスター作成係、映像係の方たちが、私たちの理想の看護師像を美しく動画やボードに表してくれたことに嬉しさと感動を感じました。そして励ましの言葉では、看護学生にとって一番の先生は「患者」であるというお言葉を頂いたことから、実習に行った際にはこのことを忘れずに、患者を看護していきたいと思いました。

講演会では、講師の菊地政彦氏によるがんを体験して思ったことや、がんによって生活がどのように変化した

看護学部2年 田村 光汰（「誓いの言葉」学生代表）

か、その時看護師にしてもらって嬉しかったことなどを実際に聞いたことから、私たちにとって貴重な時間となりました。今回の講演を通じて、がん患者に対する理解が深まり、がん患者の担当になった際にはこの内容を思い出し、看護につなげたいと思います。



「誓いの言葉」を述べる田村光汰さん（左）と阿部春華さん



看護師特定行為研修1期生の修了と2期生を迎えて

看護実践センター長 一戸とも子

本学は、昨年10月1日に看護師特定行為研修の区分「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」をスタートしましたが、2021年9月15日に1期生5名が無事に1年間の課程を修了しました。研修生は、看護師として本務に従事しながら、共通科目7科目266時間、区分別科目16時間と実習(10症例)に取り組みました。研修生の努力に敬意を表し、関係機関の皆様のご協力に深く感謝しております。

今後は、研修修了の自信と使命感をもって、「より質の高いケアの実践」や「チーム医療への貢献」への活躍を期待しています。修了式に引き続き、10月1日に2期生6名(県内5名、函館1名)を迎えて、コロナ禍に

配慮してオンラインで入講式を行いました。22日に初めての集合研修で研修生同士の顔合わせができ、一気に一つのチームになることができました。研修には、チームワークが一番の力になります。研修の成功を心から願っています。



まちなかキャンパス公開講座2021

青森中央学院大学地域社会活動委員会が主催する「まちなかキャンパス公開講座」のテーマは「こころもからだも生き生き健康生活に」です。第1回は「日常生活で工夫する心の健康」、第2回は「認知症とその予防について」、第3回は「体の変化を理解しよう」、第4回は「高齢者の社会参加について」と題して開催されました。講座

を共催する青森商工会議所のAOMORI STARTUP CENTER(青森駅前)が会場です。この公開講座は毎年開催しており、参加募集後すぐに定員がいっぱいとなる人気の高い講座となっています。その講義の一部をご紹介します。

第1回「日常生活で工夫するこころの健康」

コロナウイルスは私たちの心にアタッチメント(愛着)とは反対のデタッチメント(分離)をもたらしました。孤独が増した結果、不眠、不安、恐怖を訴える人が増えています。ストレス反応はパンデミックという異常な状況に対する人間の正常な反応です。ストレス反応は身体的・心理的・行動的の反応に現れます。ストレス反応に対する対処法が重要です。会食自粛などで対処法がないと感じている方も多いでしょう。しかし、対処法は旅行や会食だけではありません。入浴や家庭菜園など何でも構わないのです。

看護学部准教授 川添郁夫

特に女性の方にお勧めなのは「対話」です。「会話」というおしゃべりも大切ですが、「対話」には、言葉の意味の共有が含まれます。対話をすることでお互いを「相互に尊重」する気持ちがうまれます。公開講座は参加者のストレス状態が少しでも軽くなることを目的としております。ご参加を心からお待ちしております。



第2回「認知症とその予防について～生活習慣を見直しませんか～」

第2回講座の前半は、認知症の基礎知識(認知症の分類や症状、生活習慣と認知症との関わり、認知症予防など)について、パワーポイントでの説明を行いました。後半は、動画を視聴しながら認知症予防運動プログラム「コグニサイズ」について説明し、実際に参加者のみなさんに挑戦してもらいました。

「コグニサイズ」とは、コグニション(認知)とエクササイズ(運

動)を組み合わせた造語で、頭で考える課題と身体を動かす課題を同時に行うことで、脳と身体の機能を効果的に向上させることが期待されます。しりとりにゲームを取り入れながら、大変楽しく体験してもらうことができました。



看護学部准教授 中川孝子
看護学部助教 熊谷和可子

第3回「からだの変化を理解しよう」

第3回はロコモティブシンドローム(LS)を中心に運動器(筋肉、骨、関節:軟骨、脊椎、脊髄)の加齢変化を考えました。LSとは運動器の加齢変化で要介護になる危険の高い状態です。骨は、全身に206個あり大腿骨40-50cmから耳小骨1mmと大きさは様々、形も下顎骨のような個性的なものまで多様です。どれも貴重な存在です。

肘と膝関節の構造を解明したり、腰の曲がったおばあさんが手

押し車を使うのはなぜか?との疑問を解きながら、骨粗しょう症、脊柱管狭窄症、すべり症、大腿骨骨折の解説をしました。最後に参加者全員で、看護学部4年の戸沢さんと古川さんとともに「LS予防ロコモ体操」を行いました。



看護学部教授 坂井哲博

「祝!産学官コラボ10周年 選抜よくばり弁当」の販売



今年も、毎年恒例となった産(イトーヨーカドー)学(青森中央短期大学食物栄養学科)官(青森県)の協同による弁当が販売されました。今年で10周年を迎えたことを踏まえ、これまで商品となったレシピにさらにアレンジを加えたものを中心に作成することとなりました。その名も「祝!産学官コラボ 10周年選抜よくばり弁当」。9品目のうち、7品は学生により新たなアレンジが加わった過去のレシピ、2品は新レシピとなりました。

コロナ禍により青森県庁への表敬訪問や販売イベントが中止となる中、報道陣に向けての広報活動、売り場でのお手伝いなど学生の頑張りがあり、9月8日～12日の5日間、県内4店舗のイトーヨーカドーで販売され、連日売り切れという好評の内に販売が終了となりました。



青森県水産振興課主催「魚食推進」 オンライン料理教室に参加

食物栄養学科の学生が青森県水産振興課主催「魚食推進」オンライン料理教室に参加しました。県職員の方と学生が『魚食』に関する意見交換を交えつつ、十三湖産のしじみを使った美味しいしじみ汁の作り方を教えていただきました。参加学生は「しじみの出汁を活用して減塩に取り組みたい」「さっそく家族に作りたい」「青森の魚介類を使った献立を立てたい」と話していました。

本学では「学びの青森化」に取り組んでおり、ほぼすべての科目で「地元青森」に関連づけて学ぶことを実行しています。普段の大学での学びに加え、オンライン料理教室を通して「魚食」をさらに意識することができました。



社会人1年目!頑張っています! ～栄養士1年目～

株式会社メフォス
有料老人ホーム「こまち」配属

今 美穂さん(食物栄養学科2020年度卒業)

最初は特別養護老人ホーム「朝光苑」に栄養士として配属され、主に厨房で調理をしていました。こちらでは素材にこだわり、ひとつひとつ丁寧に調理をさせていただいていました。月に数回のおやつ出しがありますが、入居者様と楽しく触れ合いながら、共に時間を過ごさせていただきました。やはり、ご年配の方がたくさんいる職場が私には向いているなと実感しています。

また、今後のキャリア設計のため、管理栄養士の国家資格の取得を目指しています。管理栄養士として働くために、今のうちから書類の作成を学びたい旨を会社に希望を出したところ、11月から有料老人ホーム「こまち」への異動が決まり、書類作成業務を行うことになりました。自身の夢を叶えるため、積極的に発言し、成長していきたいと思えます!



管理栄養士免許取得のための勉強会 ～国家資格取得に向けた取り組み～

2021年度の管理栄養士免許取得のための勉強会は、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、9月から12月の間、月1～2回ほどオンライン形式で行っています。今年度の参加者は15名で、他大学出身の方の参加もあります。働きながら、家庭をもちながら、国家資格の取得を目指す皆さんを応援するために、学科教員が過去問題の分析を行い、勉強会を企画しております。参加者の合格率も年々伸びてきており、20歳代の合格者もいます。

卒業生のみならず、地域の方々の国家資格取得に向けて、青森中央短期大学は生涯のキャリア支援を応援して参ります。12月以降もLINEによる個別の質問を受け付けており、随時参加可能です。ぜひ周りの方にもお声がけください。詳しくは大学HPをご覧ください。





「幼稚園・保育園等合同説明会」 に参加して

幼児保育学科2年 田中優香



この説明会に参加して、自分の興味のある園や施設だけでなく、青森県内さまざまな地域の園や施設の特徴、独自で行っているもの、大切にしていることなど、たくさんを知ることができ、自分の視野が広がる機会になったと思います。

私は児童養護施設で施設保育士として働きたいと考えていたのですが、同じ児童養護施設でも1ユニット当たりの人数や、子どもを養護するうえで何を大切にしているか、さらには新卒保育者に求めることも施設によって違うということを知りました。また、幼稚園や保育園の説明もたくさん聞くことができ「施設以外で働くのもいいな」と感じました。

進路に迷っている学生、特に1年生は、このような合同説明会に参加することで視野が広がり、自分の中に新たな気づきが生まれる良い機会になると思います。



親子講座「ビオトープで遊ぼう」

幼児保育学科1年 岩淵 愛

今年のビオトープでの親子講座には6組の家族が参加し、2021年10月16日に行いました。学生が制作した絵本「タニタニの大冒険」の読み聞かせや「めだかは色が変わる」などの講座を通し、子ども達はビオトープに住む生き物に興味津々です。タニタニはゲンゴロウやアゲハチョウなどに連れられて、ビオトープを大移動します。どんな生き物がいたのかな?それは、ビオトープに来てみてのお楽しみです。

いよいよビオトープに出発。子ども達は元気いっぱい虫取り網を持ち、親御さんは池にいる虫たちを捕まえるための水槽を持ち、親子共に目をキラキラさせて絵本の中の虫やメダカを探していました。附属第一幼稚園の先生たちはビオトープの生き物たちのカードを手作りし、子どもたちはレアカードの生き物探しに一生懸命です。

生き物と親子の触れ合いを間近で感じることができる本講座は、保育者を目指す私たち学生にとって、とても良い経験になりました。



「青森いきいきやさいレディ」 として活動しています

幼児保育学科1年 八木澤 美咲



2021年5月8日、JA全農あおもりによる「第2回青森いきいきやさいレディコンテスト」が行われました。私はお年寄りから子どもたちまで、広く県産野菜のおいしさを伝えたいと思い、コンテストに応募しました。書類選考、二次選考と進み、最終選考で、晴れて第二代目の「青森いきいきやさいレディ」に選ばれました。

「青森いきいきやさいレディ」は、県内外でキャンペーン・消費宣伝活動を実施し、県産野菜・花きを消費者に広くPRするとともに、その認知度向上を目的とした活動を行います。8月31日「やさいの日」には、県産野菜を全国に知っていただくため、生活に役立つ「やさい情報」をお届けする「青森やさいオンラインイベント」に出演しました。

2年間の任期の中で、より多くの方々に、青森の安全でおいしい野菜の魅力をお伝えできるように尽力いたします。皆さんも、ぜひ、青森県の野菜を積極的に食べてみてくださいね。



「子どものための心理的応急処置 (子どものためのPFA)」紹介研修

東日本大震災から10年の節目を迎え、青森中央短期大学では、「災害・防災をもう一度自分事として考える」をテーマとし、「子どものための心理的応急処置(子どものためのPFA)」紹介研修をオンラインでの講義とグループワークという形で開催しました。子どものための心理的応急処置(PFA: Psychological First Aid)とは、地震や事故など危機的な出来事に直面した子どもたちの心を傷つけずに対応するための、専門家でなくてもできる方法です。

今回は紹介研修ということで、東北医科薬科大学病院准教授の福地成先生に、PFAとは、緊急時の子どもの反応、ストレスを抱えている子どもへの対応などについてご講義いただきました。保育者の方や防災士会の方など、子どもに関わる仕事や防災に関わる仕事に就いている方々が多数参加して下さり、オンラインによるグループワークという環境の中でも積極的に意見を出し合い、熱意溢れる研修となりました。

12月には、子どものためのPFAプログラムを作成したセーブ・ザ・チルドレンより修了証が発行される、子どものためのPFA一日研修を開催する予定です。

青森中央短期大学は、危機的状況でも人同士が支えあえる地域づくりに貢献することを目指して、今後もPFA研修を実施していきます。

附属第一・第二・第三幼稚園／ 中央文化・浦町保育園

教育方針

健康で明るく心豊かな子ども

●友達と仲良く遊ぶ。

●思ったことははっきり話す。

●よく見、よく聞き、よく考える。

●自分のことは自分でやる。

附属第一幼稚園



オリジナルの衣装を着て、
学内でねぶた祭りを楽しんだよ!



自分で好きな花を選んで、
プランターに植え替えて育てたよ☆



サンドームで初めての運動会!
一生懸命走るぞ☆

中央文化保育園



祝50周年
かわいいバスになりました!!

附属第二幼稚園



晴天の遠足!
友達と長い大型滑り台で遊んだり、
とても楽しかったよ。



楽しかった運動会!
エルモの口にバスケットを
上手に入れることができたよ。



交通安全教室では、
短大のお兄さん、お姉さんと一緒に
横断歩道の渡り方を勉強したよ。



まっかなりんご、
ゲットでーす🍏

附属第三幼稚園



年少組保育参観
見て見て!上手にできましたよ。



運動会
綱引き、力が入ります。ソ〜レ!ソ〜レ!



合宿保育の年長さん
スイカ割り、みごとにハズレ!次の人ががんばれ!

浦町保育園



総合訓練を行いました。
目印の風船に向かってドキ・ドキしながら、
消火器で火を消すことができました。

先生達活躍しています

子どもたちと成長する日々

附属幼稚園に勤めて2年目になり、今年度は0歳児を担当しています。4月には何をしたらいいのかと悩むこともたくさんありましたが、優しい先輩方にアドバイスやコツを教えていただいたり、支えてもらいながら仕事をすることで充実した毎日を過ごしています。

園庭での保育では、たんぼぼのプレゼントをもらったり、子どもたちからのかわいいエピソードを聞いたり、ほっこりとする出来事が毎日起こり笑顔も絶えず元気をもらっています。

また、0歳児は毎日が成長の日々で、昨日できなかったことが次の

認定こども園青森中央短期大学附属第二幼稚園
 田中 結菜先生



日できるようになります。はじめは言葉も言えなかった子ども、今では私の名前を呼んでくれ、お話ができるようになったり、歩けるようになりました。たくさんの笑顔を見せてくれる子どもたちと毎日楽しく過ごすことができ、この仕事にとってもやりがいを感じています。大変なこともあります、これからも子どもたちのパワーに負けないように一緒に日々成長していきたいです。

子どもと共に成長できるお仕事です

浦町保育園の保育教諭として勤めてから4年目を迎えました。

私自身2児の母として働きながらもまだまだ保育教諭としての経験は浅く、日々の保育に悩み迷いながら試行錯誤する毎日です。しかし職場の先輩方のアットホームな温かさや子どもたちの元気いっぴいのパワーと笑顔のおかげで楽しくお仕事ができています。

今年度は、初めて3歳以上児のフリーを経験させていただくことになりました。発達や年齢共に幅広い子どもたちとの関わり、先輩方のユーモアのある保育、どれも刺激的で学ぶことばかりです。特に、様々なクラスに入り一人ひとりの子どもと時間をかけて向き合うこと

幼保連携型認定こども園浦町保育園
 中野渡 明香梨先生



で、自分自身のこれまでの保育を振り返るきっかけにもなりました。今日はどのクラスに入るのか、子どものどんな発見に立ち会えるかと、毎日の保育が楽しみです。

子どもたちの日々の成長を見逃すことがないように、全体を見渡せる広い視野を持ち、常に様々なことに挑戦し吸収してスキルアップに励んでいきたいです。そして、これからたくさん経験を積み、子どもたちと共に成長していきたいと思っています。

頼もしい姿、かわいい笑顔が最高

中央文化保育園に勤務して20年以上が経ち、今は指導保育教諭として保育に携わっています。元気いっぴいの保育園の子どもたちや保護者の方、街で卒園児に「先生!」と声をかけられたり、ママになり保育園に子どもを預けてくれるなど、たくさんのお会いがあります。毎日の保育の中で「子どもへの対応はこれでよかったのかな?」「保護者の気持ちに寄り添えたのかな?」と、悩むこともありますが、無邪気なこどもたちの姿を見ると、「今日も頑張ろう!」と思えます。

幼保連携型認定こども園中央文化保育園
 佐藤 るみ子先生



保育教諭や子ども同士の関わりの中で、課題を達成したときの頼もしい姿やかわいい笑顔は最高です。そのときの感動を味わえるのは、この仕事だからこそです。保護者の方と一緒に子どもたちの成長を願い、様々な人との出会いを大切にに関わりながら、自分自身も成長していきたいと思っています。

📖 読み聞かせたい一冊の絵本

ちょっとだけまいご

クリス・ホートン 作 木坂 涼 訳 (BL出版)

ストーリーの展開が分かりやすく、イラストも可愛く魅力的な作品となっています。

迷子になったちびフクロウが、森で出会ったリスと一緒にママフクロウを探しに行くお話です。ちびフクロウがジェスチャーで伝えると、リスが思い当たる所へ連れていき、リスの勘違いがまた楽しく、みんなで右往左往しながらも母フクロウに会えた時は胸にグツとくるものがあります。最後のシーンでは、「おっ おー!」と声に出してしまうシーンとなっており、繰り返し読みたい一冊となっております。



認定こども園青森中央短期大学附属第一幼稚園 井上由貴先生

青森中央経理専門学校 青森中央文化専門学校

日暮里ファッションデザインコンテスト

青森中央文化専門学校トータルファッション科アパレル専攻2年・齋藤楓さんのデザイン画が「日暮里ファッションデザインコンテスト2021」で入選を果たしました。このコンテストは、日本でも有数の繊維街・東京都日暮里で毎年行われているもので、今年のテーマは「ファッション・チャレンジ2021-日暮里から発信するサステナブルスタイル-」です。

齋藤さんのデザイン画は、全国5,323点の応募があった一次審査の中から、最終審査へ進出する入選作品の40点に選出。入選した齋藤さんは、夏季休暇中も最終審査会へ出展する実物衣装の制作に連日取り組み、11月6日～11日の期間中、東京都・荒川区日暮里地域活性化施設3階多目的スペース「ふらっとにっぽり」にて、公開展示会が行われました。惜しくも最終審査会での受賞は逃しましたが、卒業後に進むアパレル業界への大きな自信へつながる経験となりました。



ねぶた合同発表を行いました

2021年7月26日、青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校では、学術交流会館横サブグラウンドにて、青森中央短期大学、青森中央短期大学附属第一幼稚園と合同で、ねぶた合同発表を行いました。

ねぶた祭に参加するため、「生活文化セミナー」の授業で青森の郷土と文化を学び、学生それぞれが鉦、笛、太鼓の練習に励んできました。残念ながら今年のねぶた祭は中止となってしまいましたが、合同発表にて特別養護老人ホーム「三思園」入所者の方々に楽しんでもらうためにも心を込めて演奏しました。

合同発表当日は、強風の中での演奏で、音が風に流されて大変な思いもりましたが、練習の成果を発揮することができ、三思園の方々にも楽しんでもらうことができました。



観光コンシェルジュコース 「世界遺産見学」について

世界文化遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」の17ある構成資産のひとつで、国指定史跡「小牧野遺跡」を青森中央経理専門学校観光コンシェルジュコースの学生が2021年10月28日見学しました。

学校から車で15分程度の場所にある小牧野遺跡は、7月に世界遺産登録されましたが、コロナ禍もあり、9月は休館していました。

旧野沢小学校を活用しての学習館「縄文の学び舎・小牧野館」で予習をし、さらに車で5分ほど未舗装の山道を登って、現れた小牧野式と言われる環状列石や竪穴式住居跡、土器墓墓や土坑墓群等は、縄文時代にタイムスリップしたような感覚でした。

ガイドをして下さった竹中館長・野沢さん、ありがとうございました。



創立記念レクリエーション

2021年10月11日、創立記念レクリエーションを実施しました。記念レクリエーションは毎年、学園の創立記念日である6月11日前後に実施していましたが、昨年と同様、今年も新型コロナウイルス感染症拡大により延期となり、この日に実施しました。

レクリエーション当日はあいにくの雨模様となり、学園キャンパス内の第二体育館を会場に、学生会が運営を担って、バスケットやバトミントン、ビンゴ大会などを行いました。特にビンゴ大会では、数字が読み上げられるたびに学生らは一喜一憂し、ビンゴした学生には景品と周りからの大きな拍手が送られていました。来年は、青空の下でおもいきり楽しみたいと願うばかりです。





専修学校

准教員資格認定研修会

2021年10月6日～8日の3日間にわたり、青森県専修学校各種学校連合会が主催する2021年度の「専修学校准教員資格認定研修会」を行いました。

この研修会は、専修学校の教育内容充実のため、教育資質向上を目的として設けた「専修学校教員認定制度」に準じ、将来専修学校教員として指導の立場に就くことを前提に、教育者としての専門分野における基礎教育を受けるものです。

研修会では、青森中央学院大学・青森中央短期大学の教員をはじめ、外部講師の方にもご指導いただきました。専門学校学生と外部受講生が参加し、教育とは何か、教育の方法、青年期の学生との接し方、専修学校について等、充実した講義内容の3日間を過ごしました。



ファッション通信

ファッションコーディネート

今回は、「kawaii」をテーマにしたモノトーンコーデをご紹介します。

左側のコーデは、トップス・スカート共に黒で全体的に統一感を出しました。白のレースがポイントになっています。ワントーンコーデでも、フリルやレースのデザイン、アクセサリ類に少女らしさを演出するカチューシャや、リボン・ハートのモチーフを使用することで、かわいらしい印象を作ることができます。

右側は、たっぷりのギャザーが入ったフリルの袖に、リボンタイの黒いブラウス、白いツイードのフリルスカートを合わせました。こちらもトップスのリボンタイのレースとスカートの白で統一感が出ています。また、ツイード素材を使うことで、季節感と高級感のある印象になります。



おすすめ図書

青森中央文化専門学校 推薦
大水 咲良 先生

会わなくても"指名"される 「トップ販売員のInstagram力」

艸谷真由 著(大和出版)

アパレルブランドと販売員のInstagram力をアップさせるための珠玉の一冊。ここまで教えていいの?というくらい盛り沢山にInstagramマーケティングのノウハウが具体的に書かれています。アパレル販売員に特化した内容ですが、アパレルに限らず、Instagram力をあげたい方にもおすすめです。

また、本書は今年3月に書かれており、コロナ禍のアパレル現場での具体的なノウハウや活用法なども記されており、即戦力になる内容となっています。ショッピング機能、まとめ、リールといったInstagramの最新機能にも触れていて、今後アパレル業界で公式のInstagramアカウントを持つショップで働く予定の方はもちろん、ブランドを持つクリエイターには、知識の再確認という意味でもとても網羅的で役立つ内容になっています。随所にわかりやすい図版、メニュー操作などの具体的な操作方法、普段の投稿のルーティーンや考え方、組織でどう活用するかといった使い方にも丁寧に触れているので、Instagramをあまり使ったことのない人にもお勧めです。



卒業生ピックアップ

有限会社テック
テックイースト薬局 調剤薬局事務員
橋本 麻央さん

(青森中央経理専門学校 医療事務コース 2020年度卒業生)

私は2020年度に青森中央経理専門学校の医療事務コースを卒業し、現在、有限会社テック テックイースト薬局にて調剤薬局事務員として働いています。

専門学校に入学した時、初めて実家から出て生活をする不安と、知り合いがいない地域で生活をする不安がありました。しかし、青森中央学院大学のボランティアサークルや語学講座に参加し、大学・短大生・留学生の方々と交友関係を広げ、とても有意義な時間を過ごすことができました。初めて学ぶ医療分野は、はじめはわからないことばかりでしたが、学んでいくうちに自分の知識が深まり、「資格」取得に繋がる達成感も経験でき、充実した二年間でした。実業務では、医療事務で学んだ保険や点数はとても役立っています。また、敬語やビジネスマナーの知識も専門学校で学んだことを職場で発揮できていると感じています。これからも医療に携わる者としての自覚を持ち、社会に貢献できるように頑張ります。



青森田中学園と「青森ねぶた」

「郷土と文化」を学ぶ

青森中央短期大学と専門学校では、前期授業「郷土と文化」の中で、世界文化遺産となった三内丸山遺跡や青森ねぶた祭について学びます。授業では講義の他、青森ねぶた囃子を練習しました。今年も祭の中止により合同運行への参加は叶いませんでしたが、キャンパスに青森の夏の到来を思わせるねぶた囃子が響き渡りました。



キャンパスを金魚ねぶたが練り歩きました

2021年7月26日、キャンパス内サブグラウンドにて、認定こども園青森中央短期大学附属第一幼稚園の園児たちは手作りした金魚ねぶたを手に、青森中央短期大学生と専門学校生のねぶた囃子に合わせて、「ラッセラー」の掛け声と共ににぎやかに練り歩きました。

昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大で「青森ねぶた祭」が中止となったことから、祭本番に向けて囃子演奏の練習を重ねてきた学生たちにとっても、練習の成果を披露できる良い機会となりました。

また、キャンパス内にある特別養護老人ホーム「三思園」の入所者の皆さまにも、ねぶた囃子の音色と元気な掛け声で青森ねぶた祭の雰囲気を感じていただきました。



ねぶた囃子方が演奏を披露しました

2021年8月4日、コロナ禍で中止とならなければ青森ねぶた祭シーズン真っ最中だったこの日、学生サークル「ねぶた囃子方部」が特別養護老人ホーム「勝田三思園」を訪れ、ねぶた囃子の演奏を披露しました。このねぶた囃子方部による老人ホームの慰問活動は毎年行っているもので、入所者のみなさんに青森の夏の風物詩として演奏を楽しんでいただきました。





「高校生スキルアッププログラム」について



このプログラムは、青森県内の高校生を対象とし、青森県教育委員会が認定する講座や講演会、体験学習などの学校外学修へ参加してスキルを身につけてもらうことを目的としたものです。本学園で開催する講座にも対象となるプログラムがあります。対象講座は、「高校生スキル

アップマーク」が目印です。高校生のみならず、本学園の対象講座で知識の幅を広げ、スキルアップしてみませんか。

【これまでの対象講座】

〈青森中央短期大学〉

●開学50周年記念講座

「絵本作家の眼『もったいない』を再考しよう」

●開学50周年記念講演

「サステナブルな地球環境～食用コオロギの可能性～」

〈青森中央学院大学〉

●ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～

●むつサテライトキャンパス高校生向け講座

●青森中央学院大学まちなかキャンパス公開講座

●社会課題解決型

「ビジネスプラン作成講座」(開講中)



リサイクル募金「きしゃぼん」について



青森田中学園では、リサイクル募金「きしゃぼん」を運営している嵯峨野株式会社と提携契約を締結し、使い終わった書籍やDVDなどを嵯峨野株式会社へ送付することで、青森田中学園基金への寄付となる取り組みを行っています。寄付金は図書館の図書・雑誌・新聞・データベース・視聴覚資料等の購入費用に活用させていただきます。

募金方法は、WEBや電話でお申し込みする他、本学園の本部棟・2号館・7号館の1階に回収ボックスを設置していますので、こちらをご利用ください。皆さまからのあたたかいご支援をお待ちしております。



新型コロナウイルス感染症への本学の対応について

本学園では感染症拡大の状況を踏まえ、適宜、必要な対策を講じていきます。学園ホームページで随時お知らせしますので、定期的な確認をお願いいたします。「新型コロナウイルスへの対応について」は、下記QRコードからご確認いただけます。

【新型コロナワクチン職域接種】

青森中央学院大学・青森中央短期大学・青森中央文化専門学校・青森中央経理専門学校では、昨年の新型コロナウイルス感染拡大以来、学生、教職員が一丸となって感染防止対策に取り組みながらも、さまざまな教育上の制約を余儀なくされました。しかしこのたび、青森商工会議所様、協同組合青森総合卸センター様のご配慮により、多くの学生や教職員がワクチン職域接種の機会を得ることができました。これからも感染抑制に努めながら、充実した大学生活の実現に取り組んでまいります。

なお、本接種は希望者に対して行われるものであり、接種の有無で学内施設の利用や学校生活・職場環境に不利益が生じることはありません。



【新型コロナウイルス感染拡大防止対策にご協力をお願いします】

- マスク着用と手洗い・消毒の徹底と検温・健康管理
- 「密閉」「密集」「近距離の会話」の三つの条件を避けることを基本方針とした授業環境の整備と学内換気の徹底
- 感染リスクが高まる学外活動の自粛

※感染拡大防止に向け、新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCoA)の利用をお願いします。



最新情報は「学校法人 青森田中学園における新型コロナウイルスへの対応について」をご確認ください。

青森田中学園報「こぶしの花」第106号

発行日:2021.11.30

発行:学校法人 青森田中学園

〒030-0132 青森市横内字神田12

TEL:017-728-0131

FAX:017-738-8333

<https://www.aomoricgu.ac.jp>

<https://www.chutan.ac.jp>

「こぶしの花」編集委員

編集長 加藤 澄

木村 峰子 柿崎はるな

外崎 秀香 木村 貴子

大水 咲良 坪谷 輝子

中田 尋美 岩葉 悦子

町田美智子 高橋 晴美



青森中央学院大学

青森中央短期大学

青森中央経理専門学校

青森中央文化専門学校

認定こども園 青森中央短期大学附属第一幼稚園

認定こども園 青森中央短期大学附属第二幼稚園

認定こども園 青森中央短期大学附属第三幼稚園

幼保連携型認定こども園 中央文化保育園

幼保連携型認定こども園 浦町保育園

「キャンパスの風景～合子沢川で見つけたカルガモの親子～」

青森中央経理専門学校1年 蝦名 穂乃花(写真サークル所属)

撮影:2021年8月(スマートフォンにて撮影)



「こぶしの花」掲載写真募集!

「こぶしの花」編集委員会では、青森田中学園報「こぶしの花」の写真を募集しています。

緑豊かな学園内での、四季折々の風景を題材とした在学生の皆さんの作品をお待ちしています。

■応募期間:通年

■応募方法:応募先メールアドレスに、

①件名「こぶしの花写真応募」

②本文「学部学科・学籍番号・氏名・電話番号」を記入し、写真データを添付して応募ください。

なお、応募作品は、青森田中学園在学生在が撮影した未発表のものに限ります。

掲載が決まりましたら、こちらから連絡いたします。

■応募先メールアドレス:kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp

※お問い合わせもこちらのアドレスまでお願いします。

携帯から
応募の際は
コチラを
ご利用下さい

